

# 中川正春の永田町かわら版

2004/11/4 第225号

民主党三重2区総支部連合会 衆議院議員中川正春事務所 ※配信不要の方はお手数ですがご連絡ください。

三重／〒513-0013鈴鹿市国分町453-7 TEL: 0593-73-3933/FAX: 0593-74-3088

東京／〒100-8981永田町2-2-1 衆議院第一議員会館428 TEL: 03-3508-7128/FAX: 03-3508-3428

## お知らせ

○号外でお願いした台風、地震への救援募集に沢山の  
方々からのご協力、本当にありがとうございます。

○木村剛さんを迎えての政策セミナー 300人あまりのご  
参加をいただきました。この会を通じて資金的なご支援  
にあわせて、感謝申し上げます。

○国会終了後の12月には、報告会開催予定。

## ○自衛隊の撤退を決断すべき時だ。

イラクでまた犠牲者が出ました。私達もあらゆる手を尽く  
しましたが、残念です。手段を選ばないテロリストに、心から憤  
りを感じます。

来年の一月には、イラクでも選挙による民主的な手続で  
国会が開けるように、周りの国々が様々な支援に入ってい  
ます。先般東京で開かれた支援国会合の主題に「選挙が  
無事に行われる事」とあったのは、当然の事です。この会議  
のために訪日したイラクの副首相と会談した機会に、私は、  
「日本の自衛隊は出来るだけ早い時点で、帰国させるべき  
だと思っている。自衛隊にこだわらずとも、日本がイラクの復  
興にこれまで以上に貢献できる道があると思う。」と、言いま  
した。

**自衛隊の人道支援は、永遠にやっつけていくべきものではありません。日本政府は、どのような条件がそろえば帰国させるのか、そろそろハッキリさせていかなければならない時期にきています。即時撤退が出来ないなら、どのような条件が整った時に撤退するのかハッキリさせる事が自衛隊への攻撃を回避させることにもつながります。**

## ○国の借金問題を、国会、最大の争点に。

財務金融委員会で谷垣大臣相手に久し振りで質問に立  
ちました。限られた時間の中では、用意していた問題の半  
分しかできませんでした。要点は、1つ。これまで何回も指  
摘されているように、国債の発行残高、570兆円は、危機  
的状況だ。しかも、その中味の55%以上が日銀や郵便貯  
金を含めた政府の関連機関で所有されていて、この不  
健全なごまかしが政府の信用を大きくこわしている  
事。このことから言えば、**財政の再建「これ以上国の  
借金を増やさ**

ない」という断固たる政策がかなめ。これをハッキリしな  
いままに、年金や医療・介護などの社会保障費が発散し  
ていく事や、三位一体の分権議論で税財源が地方に移  
って国の税金の取り分を小さなものにしていくことを進め  
れば、その先は、「破綻」しかない。

こんな議論をした翌日、谷垣さんは、「消費税を上げる  
事になる。」という発言をして、マスコミの間に物議かもし  
だしていました。それにしても、小泉さんの「私の任期中には、  
消費税を上げることはない。」と言って、国民の嫌がる議論  
には、背を向ける姿勢が、全てを無責任であいまいなもの  
にしていることに、改めて危機感をもちます。

## ○ブッシュ政権は、日本にとっても正念場

アメリカの大統領選挙はブッシュが勝ってしまいました。  
気持が晴れない重苦しさが世界中の反応です。敵と味方  
をハッキリさせて、武力を背景にした「脅し」で直線的に外  
交を進めるアメリカが続きます。

投票前夜に、アメリカ大使館の政治担当公使に招かれま  
した。パターンソンという国務省のアジア担当補佐官が日本  
にきているので一緒に話をとということです。アメリカの軍事基  
地の再編(トランスフォーメーション)について私たちの意見  
を聴きたいと言います。「陸軍や空軍の司令部をアメリカ国  
内から日本に移して、中東までをカバーすることは、アメリ  
カが日本の防衛のために日本に基地を置いていると言う日  
米安保の基本を大転換することだ。日本は、アメリカの防  
衛システムの一部になるつもりはないし、中国の封じ込  
めにもつながっていくような流れには、反対だ。」と、私は  
言いました。予想していた反論は、「日本だけを守るため  
に米軍を駐留させると言う話は、アメリカの世論がもたな  
い。日本がこのことに頑なな姿勢を貫けば、アメリカ軍を  
引き揚げろという世論がアメリカの中に強くなる。」こうし  
たやり取りが、政府間でも行われることになるのだと思  
います。

因みに、この日にご馳走になったメニューは、イセエビとヒ  
レスステーキ。「飯は美味かったけれど、話は、食えなかつ  
た。」と言って帰って来ました。